会報
峠（とうげ）
河井継之助記念館
友の会会報
創刊号-第2号
合併号
2008.03
編集・発行／
河井継之助記念館
新潟県長岡市長町1丁目1675-1
〒940-0053
Tel.0258-30-1525
Fax.0258-30-1526
頒布価:100円（送料別）

河井継之助記念館友の会発足によせて

友の会会長　原　信一

梅の花のたよりも聞かれるこのごろ、みなさまいかがおすごしでしょうか。このたび、会報がようやく発刊のはこびになりました。会報は、友の会員の絆を強くすることは勿論ですが、河井継之助という人物を、あらためて現代に問うてみることの大切さを啓発する一手段として、みなさまから活用していただければと存じています。この際ですから、河井継之助先生に対する私の所見をのべさせていただきます。聞くところによりますと、去る2月5日、河井継之助記念館の来館者総数が2万人を突破したと、記念館の事務局から報告がまいりました。長岡市民はもとより、全国各地から大勢の方がおいでになっていることに大変驚いています。そのウェイトを占めるのは、専門家ではありません。兎角、博物館や美術館を訪れることが珍しいと思われている中高年層が実に多いということです。

長岡の企業に取引きにきたバイヤーが記念館を訪れて、元気になって帰っていくという話を聞いたことがあります。河井継之助は、真に強い男だという印象がありますが、実際は人間味あふれる存在だったように思います。藩主に抜擢されて長岡藩の政治に参画しますが、門閥に阻まれて辞職。その後しばらく山野で鉄砲に興じたり、三島億二郎とともに傷心を癒すが如く、旅に出たりもしました。ところが、西国遊歴から帰藩した後は奉行となり、大いに活躍し、頂点である藩政改革が実を結ぶ。実は、成功の連続だったわけではない、彼の紆余曲折なその人生に、平成の世に生きる多くの現代人が、共鳴を感ずるのではないでしょうか。記念館に来れば、明日への活力が湧いてくる。そんな記念館をもっと多くの方に知ってもらいたいということで、平成十九年八月十六日、記念館を応援する「友の会」が設立されました。

ガトリング砲
新たに時代考証され復元されたガトリング砲。慶応4年に2門購入され、長岡城攻防戦で使用された。

友の会では、河井継之助を「顕彰する」とか「研究する」とか、そういう難しいことは考えていません。ただ、記念館を応援し、共に学んでいくことはできるのではないかと思います。また、彼が偏見や差別にとらわれることなく、自由な創意のもとに実行しようとした志を次世代へ受け継いでいくこともまた、友の会の使命だと考えます。河井継之助没後百四十年というこの節目の年にあたり、小千谷談判以降のことだけでなく、河井継之助の生き様そのものをより多くの方に知ってもらいたいと強く思います。

現在の友の会会員数は約四百二十名。全国の会員の皆様からの応援があってこその河井継之助記念館友の会、そして河井継之助記念館であると確信しています。今後とも、皆様からの厚いご支援をよろしくお願いいたします。

峠抄（とうげしょう）①

長岡に冬のたよりが届いたある日、記念館にひとりの紳士が現れました。その方は、旧越後長岡藩牧野家十七代当主牧野忠昌様！三名のお客様と一緒に来館されました。その三名の方は牧野様のことを親しみをこめて「殿様」と呼んでいました。時代が変わっても、今なお多くの人から愛されている長岡のお殿様なのです。

殿様は、みずから館内を案内されました。そして「徳川十七将図」の掛け軸の前に来た時、そこに描かれているご自分の祖先を指し示しながら、ちょっと見にはわからない、装束の三つ柏の紋についてまでも、丁寧に説明されていました。その説明からは十七代当主のオーラが感じられ、私たちも思わず聞き入ってしまいました。

牧野のお殿様は、長岡や記念館のことをいつも気遣ってくださり、県外にお住まいにもかかわらず、度々長岡に来られては記念館に立ち寄って、元気なお姿を見せてくださいます。私たちは、その柔和な笑顔にお会いできることを心待ちにしているのです。

河井継之助記念館 設立経過と概要

●設立経過／

平成14年度　河井継之助生家跡のポケットパーク化や記念館整備について検討開始

平成15年度　長町一丁目街なみ環境整備事業（国土交通省補助事業）着手
地元住民による、長町１丁目まちづくり推進協議会発足
河井継之助史跡広場完成

平成18年度　河井継之助記念館（仮称）展示・運営検討委員会発足
計８回におよび、記念館整備・展示内容・展示手法等を検討
河井継之助記念館設計・改修工事着工
展示物検討・製作

友の会ができるまで

平成18年12月27日　河井継之助記念館開館

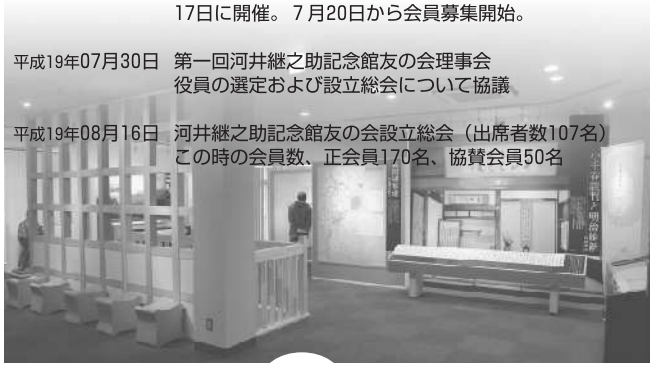
平成19年05月25日　第一回河井継之助記念館友の会（仮称）設立準備会
その際の協議「友の会は継之助の人柄を慕う人たちによって結成されるもの。また、長岡の歴史を検証する意味ではチャンスであり、みんなに愛される歴史観を目指す目的で結成されるべきもの」

平成19年06月07日　第二回河井継之助記念館友の会（仮称）設立準備会
事業内容や会の目的などを協議。

平成19年06月25日　第三回河井継之助記念館友の会（仮称）設立準備会
発起人代表の選出、趣意書、友の会入会の案内文、事業計画について協議。また、設立の日時を長岡城を奪還した７月25日にすることを決定。役員詮衡会を７月17日に開催。７月20日から会員募集開始。

平成19年07月30日　第一回河井継之助記念館友の会理事会
役員の選定および設立総会について協議

平成19年08月16日　河井継之助記念館友の会設立総会（出席者数107名）
この時の会員数、正会員170名、協賛会員50名



設立経過と概要

河井継之助記念館が開館したのが平成十八年十二月二十七日。長岡市制百周年記念事業として、長岡市が総事業費二億四千万円をかけ、河井継之助生家跡に建つ住宅（旧羽賀善蔵邸）を改修したものです。国土交通省補助事業「街なみ環境整備事業」を活用し、事業費の半分は国が補助。長町一丁目の住環境もあわせて整備されました。記念館東棟は、長町一丁目コミュニティーセンターの機能も兼ね備え、歴史・交流・憩いの拠点となっています。

河井継之助記念館は「わかりやすい・おもしろい・ためになる＝人物歴史館」という基本理念をコンセプトに、郷土長岡が生んだ偉人河井継之助の業績を紹介する歴史館として設立されました。展示は「長岡藩と河井継之助」「河井の人間性」「遊学と改革」「戊辰戦争と河井継之助」「司馬遼太郎と峠」の五章からなるゾーンで構成され、河井継之助の生涯をたっぷり紹介しています。

受付窓口には、陽明学の要素を含んだ子ども向け案内板「つぎのすけかんのきまりとおねがい」を設置。パネルは子どもでも読めるように、低い位置に配置。言葉はできるだけわかりやすい表現を用い、漢字にはルビがふってあります。

館内は、河井継之助の号「蒼龍窟」にちなみ、青色を基調としています。また、長岡の武家は「質素倹約」「質朴剛健」。旧羽賀邸の柱を再利用し、格子の壁を製作しました。

継之助の生家跡に記念館を整備することができたのは、それまで家主であった羽賀善蔵氏やそのご家族のご厚意に由来するものでしょう。この場をもちまして感謝申し上げます。（嘉瀬）

つぎのすけかんのきまりとおねがい

①心をとぎすまして、つぎのすけの人がらを感じ、考え、学びましょう。
②わからないことは、とことん調べ、質問いたしましょう。
③さわいだり、走ったり、傷つけたり、食べたり、飲んだりしてはいけません。
　人をうやまい、ものを大切にする心を養いましょう。
④なにごともあらためる気持ちをもって、つぎのすけの資料をみてください。
　そうすると新しい力がわいてくると思います。
⑤良いことはすぐに実行するように心がけましょう。

常在戦場と河井継之助

●パネル紹介

記念館を入って、正面左に展示されているパネルです。継之助の写真は、安政六年三十三歳の時、西国遊歴の際に長崎で撮影されたものです。左下には、母の貞と妻のすがが一緒に写っている貴重な写真もあります。

説明文では、長岡藩主牧野氏と「常在戦場」の精神について、また、記念館が継之助の生家跡に建てられていることを紹介しています。

そしてもうひとつ、継之助の呼び名について。明治の新聞や出版物をあげ、「つぎのすけ」「つぐのすけ」二通りがあることを紹介しています。記念館は、地元長岡で親しまれている「つぎのすけ」を採用して、「河井継之助記念館」となりました。（樺澤・神保）

入口正面のガドリング砲と展示パネル

所蔵品紹介 1 塵壺と硯

塵壺表紙

塵壺中面

塵壺（ちりつぼ）

継之助が西国遊歴の際に書き記した日記。縦約８㎝×横約17㎝の小さな冊子に、びっしりと文字が書き込まれており、日記は安政６（1859）年六月七日の江戸出発に始まり、同年12月22日の松山で終わっています。

最後のページには、この旅日記を記した理由が書き添えられています。

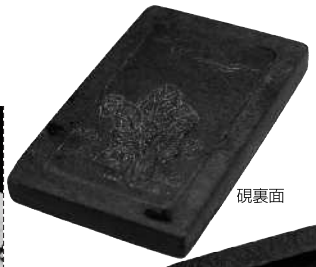
『他日、御両親への御咄のつもりと、思い付きし事を記すのみ』両親を大切に思う継之助の気持ちが表れている一文です。

あくまで継之助自身が分かる程度のメモ書きのようなもので、当て字も多く難解ですが、感じたことを思うままに書き綴るその生き生きとした文体からは、継之助の心情までも読み取ることができます。

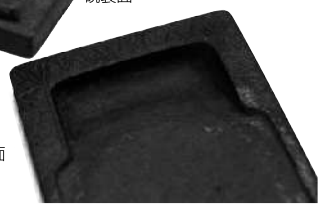
記念館では、連続講座「『塵壺』を読み解く会」を開催しています。講座では参加者が『塵壺』には書かれていない「行間」を思い思いに読み、今までの出版物には書かれることのなかった新たな解釈を与えています。

（嘉瀬・樺澤・神保）

※展示されている「塵壺」のページは講座と連動して変更されています。



硯裏面



硯表面

硯

継之助が使用したとされる硯。5.7㎝×8.8㎝×１㎝と小さく、携帯用だと思われます。端渓という高価な中国の石でつくられており、裏面にも美しい彫刻が施されています。

巾着状の硯入れ
桐箱の表書き

桐箱の裏書き

河井継之助はどういう人物？

連載

その① 継之助の誕生日

河井継之助の肖像

袋町に残る雁木通り

河井継之助が長岡城下長町に生まれたのは文政十（一八二七）年一月一日暁七ツ時（午前四時）だといわれている。今泉鐸次郎著の『河井継之助傳』がこの説をとったのは、著者が明治三十二年の春、長岡の骨董店で、継之助の履歴を記した反古紙をみつけたからであるという。

今泉鐸次郎は『河井継之助傳』を明治三十三年十二月に東北日報社（新潟市西堀通四番町）から出版しているが、当時、東北日報に河井継之助の伝記を連載していた今泉にとって、この一片紙の発見は、大きな意味を持つものであったという。

このとき、今泉はその反古紙の内容の確かさに驚き「河井家と縁故の人の手に成りしもの」と断定し、しかも官庁の求めに応じて記したものだとした。

略履歴　河井継之助秋義

一、文政十年丁亥正月元日暁七ツ時出生
一、天保十三年壬寅四月元服○十五年
一、嘉永六年癸丑、斎藤徳蔵に入塾
一、安政元年甲寅、新知三十石御目付格評定方随役、此時、江戸に在り遊学中也
一、同二年乙卯、願の通免職
一、乙卯・丙辰の内年月未詳、川島億次郎同伴、羽州温海、奥州金華山、石の巻等に遊ぶ
一、同四年丁巳、家督○三十年
一、同五年戊午十二月長岡発途江戸行
一、同六年己未、正月久敬舎入塾、○同年六月退塾、○同六月七日江戸発途、西遊七月十七日備中松山に着、山田安五郎江入塾、○同年九月発程鎮西行、十月五日長崎着、同月十八日長崎発程、十一月備中松山に帰塾
一、万延元年庚申夏、帰郷
一、慶応元年乙丑十月郡奉行
一、同二年丙寅十一月御番頭格町奉行郡奉行兼務
一、同三年丁卯四月寄合組江戸立帰り、同月御奉行格、此時在江戸、○同年九月奉命小諸行、○同年十二月御年寄役、○同年十二月江戸立帰り、同月忠訓公供奉上大坂滞城中、上京忠訓公献言書を朝に呈す、此前後、大坂城に登り、閣老に拝謁数回献言
一、明治元年正月供奉江戸、○同年四月御家老本職、○同年閏四月御家老上席、○同年五月出陣中小千谷に使す、但官軍小千谷に在り、○同年六月軍事総督、同年八月十六日会津病死、○四十二年
一、年月未詳、斉藤徳蔵、古河謹一郎、佐久間修理、山田安五郎諸先生之門に従学

この履歴が正鵠なものかどうか、今泉鐸次郎はコメントしていないが、『河井継之助傳』の骨格を為した。

明治十三年に明治政府に申請した河井家家名再興願いに付けた履歴には、誕生に日時は記されておらず、安政三辰年二月家督相続からはじまっている。先の反古紙の履歴とは相続の年が一年違っている。また、慶応四年（明治元年）六月の軍事総督は軍務総督、古河謹一郎は古賀謹一郎くらいで、その他はほぼ同じで、郷土史家の今泉の河井継之助像の根幹となった。

誕生を一月一日暁七ツ時としたのは寅月寅の日、寅の時刻にしたという説が有力である。河井家は虎の子が授かったと喜んだということだが、河井継之助傳ではそうこだわっていないから別の時刻の出生だったかもしれない。

龍虎は非凡な人物のたとえであり、しかも伯仲した英雄の代名詞のようなものだったから、両親にとっては期待した子どもの誕生だった。

もっとも、果して、その時刻に出生したかは疑問視をしている。たとえば、今泉省三は『忘却の残塁』のなかで、正午説を紹介している。その資料根拠をしめさないが「一説に午の刻、すなわち正午ごろともいわれている」としている。これは父親の今泉鐸次郎から聴取したと説明している。

文政のころ、長岡藩は藩主が幕府老中職をつとめ、絶頂期にあった。忠精は雨龍の絵を得意とし、文化大名といわれていた。しかし、一方では、江戸交際費がかさみ、藩庫は次第に払底していった。そんななか、藩財政執行の一翼を担っていた河井家に男子が生まれたのである。

（稲川）

「塵壺」を読む ①

連載

河井継之助記念館では、平成十九年四月二十一日から、河井継之助の自筆の旅日記「塵壺」を読み解く会を毎週土曜日に開催しています。そこで、話し合われたことや、解明できた謎や不思議、継之助の人間性などを順次、この会誌やそのほかの広報でご報告したいと考えています。今回はその第一回を報告します。

安政戊午十二月二十七日、長岡を出、己未正月六日江戸着

旅日記「塵壺」の冒頭は、長岡城下を出立し、安政六（一八五九）年の一月六日に、江戸愛宕下の長岡藩中屋敷に到着したことからはじまっている。『河井継之助傳』では十二月二十八日の出発となっているが、平年ならば越後は積雪もあったろうに、旅には厳しい出発である。

司馬遼太郎の『峠』では、藩庁の家老稲垣平助にかけ合い、許しがもらえると、矢も立てもたまらず、出発したことになっているから、継之助は二十七日に許しをもらうと、翌日に出発したのかもしれない。しかし、この際、どういう行程を通って、江戸へ向ったかが問題となる。『峠』では、三国街道をのぼり六日町の宿で、女郎を招いて、酒宴をしたことになっているが、当時の三国街道は雪に閉されて特に三国峠の峠越えは困難だと思われるから、他の街道を通っていった公算が強い。

では、当時はどんな街道があったのか。まず長岡藩が冬期に江戸へ行く場合は、信州路をほとんどの藩士が通行している。一旦、柏崎へ出て、柿崎を通り、頚城野、新井、善光寺、碓井峠を越えて江戸へ出る。

ところが、継之助は十二月二十七日に出発すると二十八日・二十九日・三十日・一月一日と足かけ十日間で江戸に到着している。

継之助の健脚をもってすれば、碓井峠などはわけのないことだろうが、どうも短すぎる。

そこで、想定されているのが飯山を通って碓井峠を越えた行路である。冬期間にも、信濃川の水路はある程度、通行可能であったと考えられている。むしろ、冬期は水量も安定していて、かなりの上流まで舟で遡ぼられれたのではないだろうか。

川船は越後川口・中魚沼の十日町・津南あたりまで上り、そこから峠を越え、飯山城下にでたと考えられている。

それにしても、凄い執念である。春になって出立すれば、三国街道を六泊七日程度で江戸へ向える。事実、第一回の嘉永五（一八五二）年の春に江戸に向った際は、朋輩と一緒に途中の風景・風物を楽しみながら、旅立っている。

河井継之助は人生を楽しんでいる気配があるが、特に旅には興味があったらしい。川島億次郎（三島億二郎）と奥州の旅を楽しんだ際、羽州温海温泉でゆったり湯につかっている。

長岡藩には上・中・下の江戸屋敷があって、継之助が草鞋を脱いだのは、江戸愛宕下の中屋敷であった。中屋敷は初代藩主牧野右馬允忠成以来の拝領屋敷で、長屋が多く、江戸留学生の寄宿舎となっていた。江戸遊学を希望するものは、江戸屋敷に入りさえすれば、宿代・食事代を無料で受けることができた。

そこで、中屋敷の付近の学塾に学んだ。

同十五日、久敬舎江入塾。

再び、古賀謹一郎の久敬舎に入った。そのころ、古賀は幕府の蕃書調所の頭取をしていた。謹一郎は幕府の儒官の古賀精里の孫にあたり、江戸の銀座で久敬舎を開いていた。以前、長岡藩崇徳館都講の山田愛之助が江戸遊学をした際、同門であったらしい。

最初の入塾の際、継之助は長岡での師・山田愛之助の紹介状を持って久敬舎に入塾した。その紹介状には「この男、問題児だ」ということも書かれていたのではないかと推測している。紹介状は医者の診断書のように封はしていないから、継之助も当然みている。継之助は自分の立場を弁えているから、先生の話も聞かず、読書三昧をすごしたようである。

もっとも古賀謹一郎は湯島の昌平坂学問所に出勤し、閑に家塾の久敬舎で門人たちを教授したのであるから、門人たちは古賀がいないときは思うまま過した。

古賀は蕃書調所の頭取の要職にあったから、江戸城に登城した。幕府には外交問題が山積していたから、古賀への諮問が多かった。大名にも招かれ、時事を語ることも多かったから多忙をきわめた。

おそらく、継之助は久敬舎に在塾しても、古賀からの教授はほとんど受けられなかったのではないかと想定される。しかし、古賀謹一郎の持論である「まず洋夷と交わり、国内を富強にさせて、国力を充実してから洋夷にあたる」という政治姿勢には大いに共鳴したものと思われる。

古賀謹一郎は、号を茶渓といい、寛政三博士の一人といわれた古賀精里の孫であった。当然、朱子学者であるが、博学で西洋事情にも通じていたといわれている。

継之助はその久敬舎に都合三回入塾している。余程、居心地が良かったのだろう。（稲川）

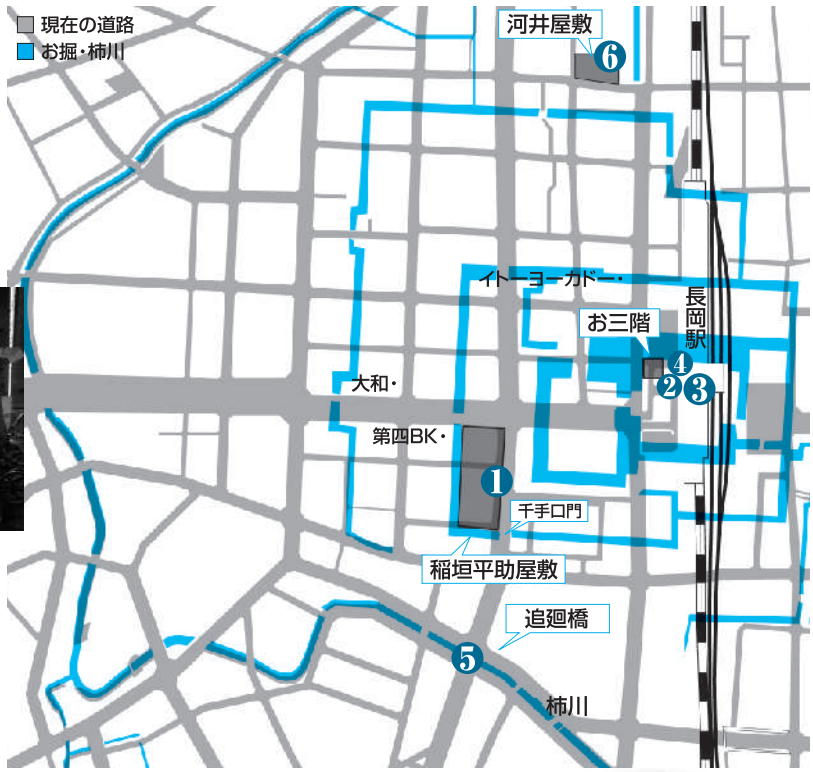
継之助着用の蓑

信濃川の夕景

「峠」の越後長岡を歩く①

連載

司馬遼太郎の『峠』に描かれている、継之助の生きた「越後長岡」の風景。百四十年の時がたち、現在はどのようになっているのでしょうか。『峠』のなかの「越後長岡」を追って、歩いてみることにしました。



①稲垣平助屋敷跡

②長岡城本丸跡石碑

③長岡駅:長岡城本丸跡

④長岡城元旦登城の図

⑤追廻橋から見た柿川

●『峠』上巻・新潮文庫8ページより
越後長岡は、牧野家七万四千石の城下である。天守閣はなかったが、お三階とよばれる本丸の楼閣が、市中のどこからでもみえた。

長岡城は平地に築かれた平城で、その周囲には城下町が広がっていました。本丸御殿は複数の平屋がつながってできており、「お三階」とよばれる、本丸北西隅にある三階建ての櫓が、天守閣の役割をしていました。「お三階」は下の土塁を含め、7～8階建てのビルに相当する高さ（約22メートル）があったと推定され、市中でひときわ高くそびえ、越後長岡のシンボルとなっていました。

現在、長岡城本丸のあった場所は、JR長岡駅になっています。堀もすべて埋め立てられ、城の遺構は今では残っていません。西口駅前の中央広場にある壁泉（噴水）横の「長岡城本丸跡碑」と、地下道入り口壁面の「長岡城元旦登城の図」が、そこに城があったことを伝えています。「お三階」は本丸跡碑の後ろの辺りに位置していたようです。

ちなみに、壁泉は長岡城と信濃川をイメージしてつくられ、長岡駅駅舎の窓枠は長岡藩の紋である「五間梯子」をモチーフにしてつくられています。

●『峠』上巻・同9ページより
城の西側に出た。柿川という小さな流れを越え、城の外郭のなかに入った。そこに、藩の首席家老の稲垣平助の屋敷がある。

柿川は、東山に水源を発し、平野部に出て、長岡城並びに城下町を囲むように流れ、防御の用もなしていました。また、幾重にも巡らした城濠の水は、柿川から引いていました。

この冒頭の場面で、継之助は自宅から出て城の西側を大きくまわり、南側にある追廻橋を渡って柿川を越え、千手口門から入って稲垣平助の屋敷を訪ねているのではないかと思われます。

稲垣家は禄高二千石の長岡藩一の名家で、広い邸内には母屋や土蔵などがあり、松の緑も豊富でした。

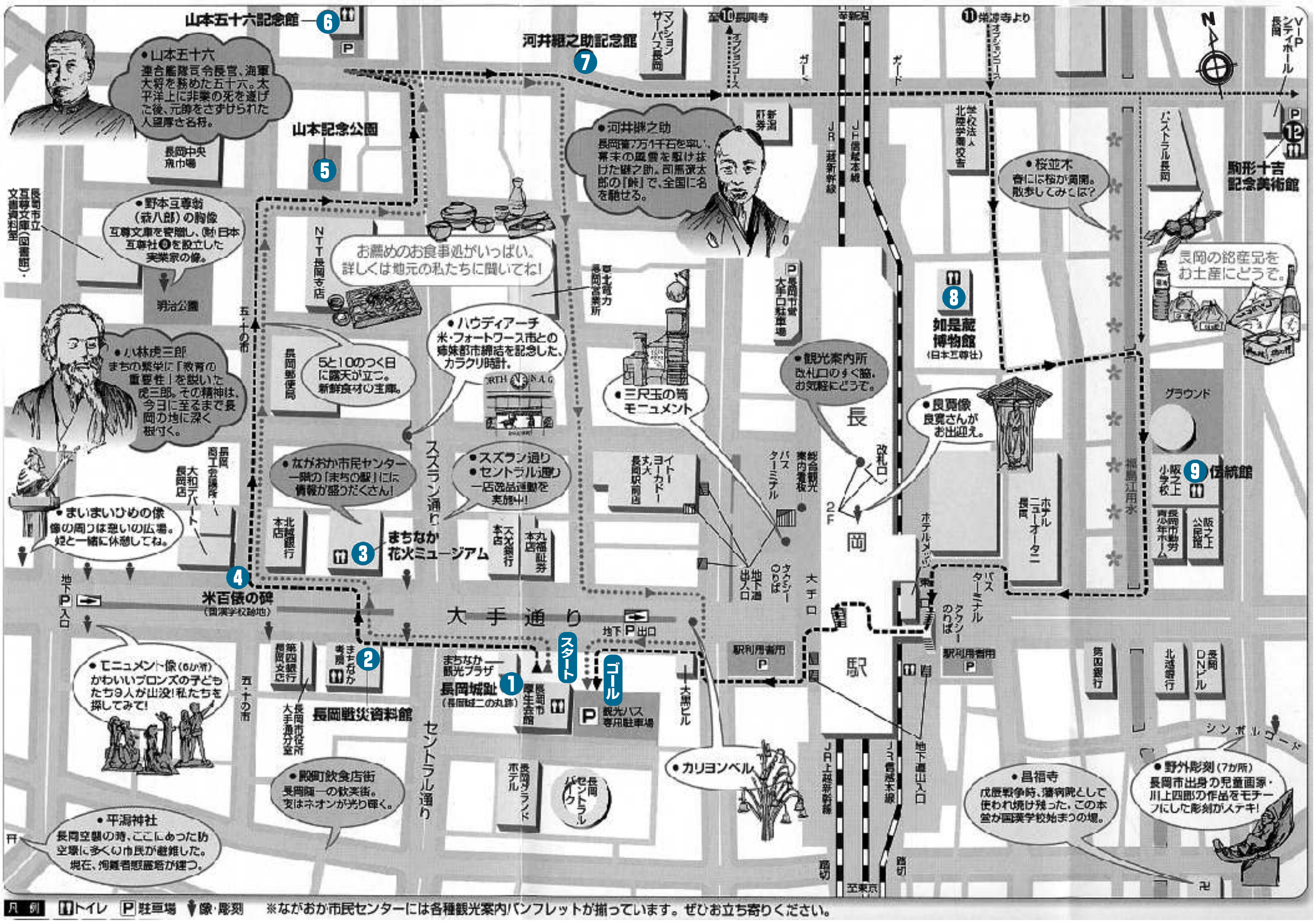
当時は商品輸送などの船の往来も盛んで、賑いがあった柿川も、今はひっそりと町の中を静かに流れています。

稲垣邸跡地は現在、国道と商店街などに姿を変えています。

●『峠』上巻・同441ページより
城下長町の河井屋敷は、門を入ったところに巨大な松がある。
―どうみても、これは竜だ。

駅前散策マップ

現在の長岡駅周辺の地図です。たくさんの観光スポットがあります。ぜひ、お立ち寄り下さい。



と、継之助はこの地を這う老松のたくましさが、少年のころからすきであった。幹に苔がはえているため、竜は竜でも蒼竜であろう。

長町は城下の北側に位置し、南北に長い町であるためその名がついたと言われ、禄高百石以上の中級武士が住んでいました。

記念館は河井継之助の生家跡地に建てられており、庭の灯籠や手水鉢などが当時の面影を今に伝えています。

しかし、残念ながら「蒼龍窟」の由来と言われる二本の松は、豪雪などにより折れてしまい、現在は残っていません。当時、折れた松の写真を撮ったら人の顔が写っていたというエピソードもあり、河井の想いが今もこの地に残っているのかもしれません。

今後、記念館の庭に、只見町より継之助ゆかりの松を移植するという計画があります。

（樺澤・神保）

参考文献
・長岡城を歩く／青柳孝司（新潟日報事業社）
・長岡歴史事典（長岡市）

⑥河井屋敷跡に建つ記念館

記念館の灯籠

記念館の灯籠と手水鉢

平成十九年六月十八日に設立された「河井継之助記念館ガイドボランティアの会」。その会長を務めるのが徳力紀久夫さんだ。記念館開館当時、多くの来館者に対する展示解説員の不足が問題となった。そこで、記念館長の発案で、ガイドボランティアを募集することになり、長岡市の広報で呼びかけた。いの一番で記念館に電話をしてきてくれたのが徳力さんだった。「ボランティアざんまい」な徳力さんの人生にスポットをあてる。

ボランティアざんまい

河井継之助記念館ガイドボランティアの会
会長　徳力紀久夫（とくりきくお）さん（七十一歳）

ボランティアざんまいの徳力さん

まさに「ボランティアざんまい」。「人が生きるということは、心ならずも人に迷惑をかけている。それに対するお詫びの意味をこめて、ボランティアを始めた。でもまあ、面白いっていうのが本音です。色々な人に出会えるし、自分の知識も広がる」

郷土史の講座に参加すると、必ず徳力さんにお会いする。余程、長岡の歴史が好きなんだなと思っていた。ところが「日本史好きが高じて、長岡の歴史に目を向けるようになった」という。記念館ガイドボランティアの会には〝マニュアル〟というものが存在しない。自分が今まで勉強してきたことを礎にしてガイドを行う。それだけに、ガイドする内容も十人十色だ。徳力ガイドの人気の秘密は、継之助のことだけではなく、継之助が生きた時代の日本の情勢を交えているところにある。「その時日本がどうなっていたのかを話してくれたので分かりやすかった」と、来館者からは好評だ。

徳力さんと初めてお会いした時に、自作の名刺をいただいた。「ボランティアざんまい」と印字されているのが印象的だった。現在は、河井継之助記念館ガイドボランティア、生涯学習相談員、要約筆記奉仕員、観光ボランティアガイドの活動を中心にされており、

ガイドボランティアの会発足そして初めての行事

ガイドボランティアに応募した理由、これがまた面白い。「開館初日に記念館を訪れました。もう感動しましたね。入り口におられた稲川館長に、お礼を述べて帰ろうとしたら呼び止められた。そして「近く、ガイドボランティアを募集するので、ぜひ応募してほしい」といわれ、面白そうだなと思って応募しました」館長からのスカウトが大きな理由だった。

六月、ついに会という組織を立ち上げることになった。継之助の命日である八月十六日に、河井継之助を偲ぶ茶会を会初めての主催行事として成功させた。「茶会前日、水汲みのために、男性会員で栃尾まで行きました。訪れる方に喜んでもらいたい一身で、重いポリタンクを山から運び、慣れない作法は女性会員に教えてもらった。大変だったけれど今年もやりたい」八月十六日を思い出す。涼しさ演出のために庭に水をまくと、かげろうの中に継之助が立っていたような気がしたのは私だけだろうか。

「ようこそ」の心でおもてなし

「記念館の印象は〝アットホーム〟。以前この建物が、同級生の羽賀君の住まいだったからそう感じるのでしょうね」ガイド当番の日、徳力さんは必ず記念館入り口に立って来館者を待つ。扉が開くと「ようこそ！」と元気よく、あたたかく、来館者に声かけをする。徳力流ボランティア精神の根っこがきっとそこにある。

（インタビュー／嘉瀬）

ガイドボランティア活動日誌

袖ふれあうも多生の縁といいますが、時空を越えて“河井継之助記念館ガイドボランティア”に駆け参じてくださった頼もしい皆様。いきいきと活躍される総勢11名のガイドボランティアの活動日誌を、そっとのぞいてみました。

○月△日　K・T

20代から30代の方が多く来館

・ガトリング砲について、弾はどこから出るのか？筒は何故６本あるのか？との質問があった。横ふりできないことを説明すると、ほとんどの方が興味を示された。とくに購入価格が一門三億円には皆さん驚かれた。

・お城の櫓について、天守閣の代りをしたお三階や二の丸櫓お太鼓櫓の説明には「何処にあったのか？今何故ないのか？」の質問がでた。

・『民は国の本　史は民の雇』の書について説明すると、外国人づれの女性（40歳代）の方が感心して通訳していられた。

・司馬遼太郎の著書について意見交換したが『峠』を２～３回読んだ方が多かった。

・長岡城奪還についての説明では「一度とられた城を奪還した合戦は古今東西において珍しい。」といわれた。（一部抜粋）

スラリと長身で眼がねの似合うK.Tさんは、笑顔で来館者を出迎え、さりげなく継之助ワールドに引き込んでくれます。

全国の継之助ファンの方もそうでない方も、河井継之助記念館に来館してガイドボランティアと語ってみませんか？
お待ちしています♪

※ガイドボランティアは、土、日、祝日を中心に活動中　（広川）

友の会設立準備委員、そして現在は友の会理事として記念館を支えてくださっている渡辺静江さん。渡辺さんは専業主婦でありながら、長岡駅観光案内所での勤務、地域活動、健康生きがいづくりアドバイザー等、現在多方面で活躍中。過去には長岡観光ボランティアガイドの会会長、長岡まつり実行委員、歴史シンポジウム実行委員等を歴任。「常に与えられた『チャンスの神様』を逃がさないようにしている」と語る渡辺さんの生き方は、とても魅力的だ。そんな渡辺さんの原点にせまる。

正直に生きる

友の会理事・長岡駅観光案内所勤務
渡辺（わたなべ）　静江（しずえ）さん（七十四歳）

おかめさんの心を心がけている渡辺さん

「長岡市民があまりにも長岡のことを知らないのでは？」開口一番、渡辺さんは私たちにそう投げかけた。「生涯学習グループ「野菊の会」での長年にわたる活動が、自分の生き方の基礎となりました。稲川館長はじめ、多くの先生方と地域を探訪する中で、長岡を知ることができたのです」もちろん、自己学習の成果もあるだろうが、人との出会いこそが長岡のことを知り、自身を高める源になっているようだ。

「高齢者大学を修了した六十五歳の時、健康生きがいづくりアドバイザーの資格を取るため、山梨県までスクーリングに行きました。また、自らのチャレンジとして、奈良県で開催された高齢者弁論大会に応募しました」常にチャレンジ精神と目的を持って生きるその姿は、かつて山田方谷を求めて旅立った継之助と重なるものがある。

今年は戊辰戦争百四十周年。渡辺さんにとって継之助とは

「昔は都会の学生が、卒業論文を書くために長岡に来ても、記念館がなかったじゃない？戊辰戦争後、長岡は「賊軍」と言われて、長岡市民でさえも河井さんのことを大事に思ってなかったのね。けれど、只見町には記念館がずっと前からあって、河井さんを大事にしている。たった12日しかいなかったのに、あれだけ大事にしてくださっている。その熱意はすばらしいと思うの」幾度となく、只見町を訪れてきた渡辺さんが感動したのは、町民たちの継之助に対する思いの強さだった。

「河井さんが亡くなった部屋が、ダムの底に沈んでしまうというので移転し、また新しい記念館に部屋がそっくり移築されて、今でも多くの人が訪れている。こんなことを言うと怒られるかもしれないけれど、長岡は観光都市として生きなかったのではないかな？という気がします。これからは、ふるさとの先人達をもっと大事にして、長岡の観光につなげていってほしいと思います」

若い世代に伝えたいこと

「今の若い人って、あまりにも自分本位じゃない？人を思いやる気持ちをちょっとだけ持ってほしい」この言葉を聞いたとき、河井継之助記念館開館一周年記念講演会で講演された司馬遼太郎記念館の上村館長の言葉を思い出した。「現代は「公」が小さく、「私」が大きくなっている」と司馬遼太郎さんは語っていたらしい。

渡辺さんは続けてこう言った。「おかめさんの顔を心がけているの。そして、自分にも周囲にも、正直に生きていきたいと思っています」河井継之助が、何事においても自分に偽りなく正直に生きたように、渡辺さんも力強く、そして思いやりをもって、真っ直ぐに生きていると感じた。

渡辺さんが心がけている「おかめさん」

- 額が広い～聡明な頭脳
- 鼻が低い～謙虚な気持ち
- 頬が大きい～寛大な心
- 口が小さい～余計なことを言わない
- 耳が大きい～人の話をよく聞く

（インタビュー／嘉瀬）

おしらせばん

●友の会総会のお知らせ
来る4月26日（土）に平成20年度の総会を開催します。
- 総　会　14:00～14:30
- 講演会　14:30～16:00
- 懇親会　16:00～18:00
- 会　場　会館青善（長岡市表町4-3-9）

※申込が必要です。「ご案内」たよりをご覧ください。

●河井継之助記の旅日記「塵壺」を読み解く会
毎週土曜日　午後1時～3時

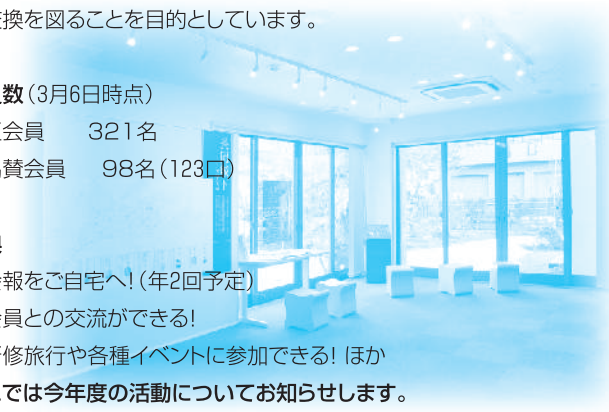
●今泉鐸次郎（たくじろう）著「河井継之助傳（でん）」を読む会
第2・4月曜日　午後1時～3時

いずれも事前申込が必要です。休講になることもありますので、詳細は記念館へお問い合わせ下さい。

●駐車スペースが広がりました！
マイクロバスでお越しの際は、前もってご連絡下さい。

河井継之助記念館　友の会について

平成19年8月16日　継之助の命日に河井継之助記念館友の会が発足しました。この会は河井継之助に親しみ、当記念館の持続的な発展に協力していただける方を会員として広く募集し、会員相互の情報交換を図ることを目的としています。



●会員数（3月6日時点）

・正会員　　321名

・協賛会員　　98名（123口）

●特典

・会報をご自宅へ！（年2回予定）

・会員との交流ができる！

・研修旅行や各種イベントに参加できる！ ほか

●それでは今年度の活動についてお知らせします。

友の会発足後、第一回目の交流研修として、昨年10月13日に継之助終焉の地である只見町を訪問しました。日本一の古本屋たもかく、叶津番所跡や只見の河井継之助記念館、医王寺などを見学。医王寺では慰霊祭を行い、長岡の河井継之助記念館の開館と友の会発足を報告。読経後、参加者全員で継之助の墓前に手を合わせました。参加者からは「また来年も！」という声が早くもあがっており、末永く只見町との交流も続けていきたいと考えています。また来年度も研修旅行を予定しています。

友の会共催事業として、昨年12月22日に「河井継之助記念館開館一周年記念特別講演会」を開催しました。講師は大阪府東大阪市にある司馬遼太郎記念館館長の上村洋行氏。「司馬遼太郎のメッセージ」を基調テーマとしてご講演いただきました。「峠」の作者、司馬遼太郎さんが現代社会に伝えたかったことを中心に、大変興味深いお話を聴くことができました。当日の聴講者はおよそ300名、申込みが殺到したほどでした。

また、友の会ホームページを平成20年1月31日に開設しました。アドレスはこちら

http://tsuginosuke.net/

そしてこの度、友の会会報第一号を発行しました。より多くの皆様のご入会、新会員のご紹介などをお待ちしています。

●友の会入会手続き

①申込書に会費を添えて、事務局(河井継之助記念館)へ持参。

②申込書を事務局へ送り、(申込書を郵送、FAXまたは、申込書の内容をメール、電話でも可)会費は銀行振込または郵便振込で納入。（恐れ入りますが手数料はご本人様負担となります。）

●年会費

①正会員／(ア)小・中学生:500円　(イ)高校生以上:2000円

②協賛会員／一口5000円(法人の他、個人でも可)

※会計年度は3月31日までとなります。

●口座について

・加入者名：河井継之助記念館友の会

・口座番号：

郵便局	00560—9—96432
長岡信用金庫関東町支店	普1032829
大光銀行本店	普1764663
第四銀行長岡支店	普1560562

●友の会事務局／河井継之助記念館

住所:〒940-0053 新潟県長岡市長町1丁目甲1675—1
電話:0258(30)1525　FAX:0258(30)1526
E-Mail:tsuginosuke@m2.nct9.ne.jp

（櫻井）

遠方からの客人（まれびと）

●インタビュー①「民者国之本、吏者民之雇」は心に響いた

西本恵美さん 22歳

2008.1／17（木）

どちらから？

―福岡県から。大学最後の休みに、一人旅で来ました。

どうやって記念館を知ったのか？

―インターネットで調べました。

どうして来たのか？

―歴史が好きで、河井継之助を尊敬しているので。いろいろ読みましたが、『峠』が一番好きです。何回も読みました。大河ドラマにしてほしいです。

継之助のどういうところが好き？

―フラフラせず、長岡藩のために真っ直ぐなところです。

記念館の印象は？

―歴史関係の館は暗くて寒いイメージがありましたが、暖かくてきれいだと思いました。

展示を見ての感想は？

―継之助の実際に言ったことばが出ているのがいいと思いました。歴史上の遠い人物でなく、生きた人間として身近に感じられました。

4月から公務員になるので、「民者国之本、吏者民之雇」は心に響きました。

（インタビュー／樺澤・神保）

●職員紹介

6名のスタッフです。河井継之助記念館が、継之助の生き様や人間性に触れられる場となり、来館者が継之助の生きた時代に思いを馳せ、元気になって帰れるような記念館にしていきたいと思っています。よろしくお願いします。

会員の声

●旅の途中です

毎週土曜日午後一時、百四十九年前の時代をタイムトラベルしています。昨年四月「塵壺」の内容が一日で解ると思い参加した会が皆で読み解く会でした。今、九ヶ月が過ぎて備中に逗留中です。継之助になったつもりで読めないけれど、すがさんのつもりで適に発見すると「トン、チン、カン」と鉦がなります。皆さんの楽しい話を聞き、旅は続きます。

―石坂昌恵

●長岡・河井継之助記念館への期待

司馬さんの小説「峠」の主人公・河井継之助は、生誕の地長岡、終焉の地只見に記念館を持つことになった。幕末維新で有名な坂本龍馬でさえ高知には記念館があるが、京都には遭難の碑のみである。二つの記念館を持つ継之助は、今でもユニークな存在である。

この新しい記念館には、塩沢の終焉の間や継之助の師・山田方谷を知る道しるべになることを期待する。「義」を尊んだ方谷と継之助は、今こそ学ぶにふさわしい人物であろう。

―小名泰裕

●ガイドボランティア活動に参加して

稲川館長の学識と人格に憧れて、記念館発足時のガイド募集に応募しました。徳力会長を中心に一年間、記念館主催事業や、独自の活動への参加、ガイドも体験し、今では自分自身の生きがいにもなりました。今度はあなたが体験してみませんか。我々も応援いたします！

―金内　清

●『河井継之助傳』を読む会に参加して

二年前、稲川館長の「江戸時代・長岡の女性たち」の講座に参加して以来、稲川館長のファンです。

『河井継之助傳』の終わりにある母堂貞子の談で、戊辰戦争で青竹の唐丸籠で罪人の如く護送されたとある。夫人すが子についても触れる。そして妹安子の懐旧談も出てくる。小金井きみ子の「ちまき」の「婆々会」から伺える、しなやかに逞しく歴史の裏舞台を生きた継之助の時代の女性たちに出会えるのが楽しみです。

―渋谷七重

●「塵壺」を読み解く会に参加して

会は館長以外は全くの素人の、十数人でわいわいと解読しながら、館長の豊富な解説があって、日記の一日分進むのがやっと、という状況で、楽しみながら進められています。

この旅の先々での見聞が、後の藩政改革に取り入れられているのを知るにつけ、もっと多くの人が参加され、継之助の偉大さと、人間味に触れてほしいと思っています。

―高木春夫

●塵壺を読み解く会、参加つれずれ

河井継之助の人となりを知るためには塵壺に触れる事が一番と、兼て考えていたので話を聞いて早速応募致しました。

旅日記らしく素直に自身の思いつく侭に記され、例えば富士山に登るや否や迷う件では我等と同じだとほっとしたり、大井川の渡しの愚を口説いてみたり、赤穂に寄り道したり大名行列の出会い、雲助共の博打を見聞したり等々興味惹くこと多く、時には皆で文章解釈に意見を闘わし、又稲川館長からは時代背景を拝聴したりで毎回和気合い合いの内に楽しく受講しています。漸く高梁に到着、核心部分ですが益々面白くなるのではと期待しています。願わくば、これからも急がず、味わい乍ら進めて頂けたら幸いです。

館長はじめ古文指導の嘉瀬さん、資料作成の皆さんに感謝申し上げます。

―高橋文男

●河井継之助を想う

長岡が不幸な目に遭ったのは戦争の故で、誰が悪いのでもない。それを何時までも誰かの所為にする様な了簡の狭い長岡人を一掃する為、継之助の才智と溢れる感性、豊かな人間味をしっかりと理解し、虎三郎も億二郎も彼の存在なくしては経済理論はおろか、長岡の歴史に名を残す事さえ出来得なかった事を誤りなく後世に伝えていく必要があります。長岡発展の源流となった者こそ、他でもなく継之助である事を！

―竹村　保

●講座に参加して

今泉鐸次郎著『河井継之助傳』を読む会は歴史初心者の私にも分かりやすく、毎回楽しみに参加しています。継之助の生き方だけでなく、当時の時代背景や世の中の仕組みまたエピソードを稲川館長はほとばしるようにお話しされます。参加者が自由に発言し、話しはどんどん膨らんでいきます。それが実に楽しいのです。あっという間に二時間が過ぎてしまいます。

―戸松　茂樹

●夫婦（めおと）語らいの庭

明治二十二年憲法発布で継之助の罪は許されたので、妻「すが」は茂樹を養子に迎えた。義父母を看取った彼女の戦後処理はこれで全て終了した。銅像設置の話があるようだが、亭主との接触の時間が短かった「すがの像」をせめて亭主と共に庭に安置したらどうか。館の庭で夫婦の語らいの場を演出することは観る人の心を和ませる風景になり、とかくハードな面の多い継之助に、ソフトな印象の話題を提供することになるのではないだろうか。

―徳力紀久夫

●河井継之助傳を読む会に参加して

『河井継之助傳』は河井継之助の人間性や生き方を知る原本である。河井に興味のある人は一度は読んでいる。私も読んだが難語句や難しい漢字が多くて読めなかった。当館で「河井継之助傳を読む会」があるというので参加する。第一回は十九年四月二十三日（月）。十一名参加。稲川館長の示唆に富んだ内容である解説と資料で解りやすく楽しい会でした。参加者も聞くだけでなく疑問や考えを出し合い、考えを確かめたり深めたりすることができる。脳の活性化と健康のために続けたい。

―中島榮一

●唱和が楽しい「読む会」

『河井継之助傳』を読む会では、皆で声を出して読み合わせます。それは清々しく気持ちが良いものです。また、難解な字や意味も丁寧に教えてもらえます。藩主牧野公の施策や教育の特徴、町の自治と商人の話、農村の仕組み等、継之助のことと併せて周辺の話や背景を探ることができます。いよいよ継之助活躍へ進みますが、継之助を知るにつけ、記念館に多くの人が来てほしいと思っています。

―堀口晴夫

「会員の声」大募集！

継之助に対する思い、雑感、記念館への要望など皆様からのご寄稿をお待ちしています。（一〇〇字程度）

研修旅行にて

会員名簿

（平成20年3月6日現在）

牧野　忠昌	顧　問	
会田　正勝	新潟県柏崎市	
相場　純夫	新潟県燕市	
相波　洋子	新潟県長岡市	
青木　修一	新潟県長岡市	
㈱青　善	新潟県長岡市	
青柳　孝司	千葉県流山市	
青柳　士郎	千葉県柏市	
青柳　好信	新潟県長岡市	
安食　正明	千葉県千葉市	
安達　昭	新潟県長岡市	
安達　栄一	新潟県長岡市	
安達　武男	新潟県小千谷市	
安達　次也	新潟県長岡市	
安達　敏幸	新潟県長岡市	
阿部　英理	新潟県新潟市	
阿部　英昭	新潟県新潟市	
新井　戴子	新潟県長岡市	
荒川キイ子	新潟県長岡市	
荒木　武司	新潟県長岡市	
荒木　久志	新潟県長岡市	
安藤　秀一	新潟県長岡市	
安藤　哲也	新潟県新潟市	
飯塚　恒夫	福島県只見町	
五十嵐秋雄	新潟県長岡市	
五十嵐　泉	新潟県長岡市	
五十嵐安夫	新潟県長岡市	
井黒　栄子	新潟県長岡市	
池田ミヤ子	新潟県長岡市	
㈱icoro	新潟県長岡市	
伊佐　テフ	新潟県新潟市	
石井準之助	新潟県長岡市	
石井　誓子	新潟県長岡市	
石井　博	新潟県新潟市	
石川　祐	埼玉県所沢市	
石黒　一重	新潟県長岡市	
石黒　ムツ	新潟県長岡市	
石坂　昌恵	新潟県長岡市	
石崎　英	新潟県長岡市	
石田　英男	新潟県長岡市	
石塚　徹	新潟県長岡市	
石原　和昌	東京都文京区	
石丸慎一郎	新潟県長岡市	
磯田　サヨ	新潟県長岡市	
磯田　達伸	新潟県長岡市	
伊丹　敏彦	新潟県長岡市	
稲川　明雄	新潟県長岡市	
稲川　剛史	新潟県長岡市	
稲川　弘	新潟県長岡市	
稲山　和男	神奈川県横浜市	
井上　利幸	新潟県長岡市	
井上　亮	神奈川県横浜市	
猪本　爾六	新潟県長岡市	
茨木　武夫	新潟県上越市	
今井謹之助	新潟県長岡市	
今井　寿江	新潟県長岡市	
今井　雄介	新潟県長岡市	
岩本　操	新潟県長岡市	
氏田　公基	新潟県燕市	
碓井　茂	新潟県長岡市	
内山　慶法	新潟県長岡市	
内山　孝子	新潟県長岡市	
内山　弘	新潟県長岡市	
梅崎　治安	栃木県宇都宮市	
江口　博子	新潟県長岡市	
江口　洋子	新潟県長岡市	
㈱エヌ・シィ・ティ	新潟県長岡市	
榎本　好子	新潟県長岡市	
遠藤　兼市	新潟県長岡市	
遠藤真紀子	愛知県名古屋市	
大久保紀美恵	新潟県長岡市	
大久保治雄	新潟県新潟市	
大崎　宏	新潟県長岡市	
大隈　勝男	新潟県長岡市	
太田　修	新潟県長岡市	
太田　幸憲	新潟県小千谷市	
大平　耕治	新潟県長岡市	
大平美恵子	新潟県長岡市	
大高　仁	新潟県長岡市	
大谷　幸子	福岡県久留米市	
大西　厚生	新潟県新潟市	
大場　正行	埼玉県朝霞市	
大橋　巧	新潟県長岡市	
大室のり子	埼玉県菖蒲町	
大八木　清	神奈川県相模原市	
大谷内トキ子	新潟県長岡市	
大柳　繁	新潟県長岡市	
岡村　清	新潟県長岡市	
岡村　節子	新潟県長岡市	
岡村　昌幸	新潟県津南町	
岡本　裕	新潟県長岡市	
小熊　順一	新潟県長岡市	
小関佐和子	新潟県新潟市	
小田島美智子	新潟県小千谷市	
小名　泰裕	埼玉県朝霞市	
小沼　昇	福島県只見町	
小野　里香	神奈川県川崎市	
小野塚江美	新潟県長岡市	
小船井チイ	新潟県長岡市	
恩田　孝重	新潟県長岡市	
恩田　正夫	新潟県長岡市	
加賀　誠一	新潟県長岡市	
笠井　則雄	新潟県長岡市	
笠原　淳子	新潟県燕市	
笠輪　春彦	新潟県長岡市	
梶谷　恭巨	新潟県柏崎市	
春日　浩三	新潟県長岡市	
嘉瀬　宏美	新潟県長岡市	
片桐　雅夫	新潟県長岡市	
片桐由美子	新潟県長岡市	
片桐　礼子	新潟県長岡市	
加藤　達也	新潟県長岡市	
加藤　尚登	新潟県長岡市	
加藤　宏幸	神奈川県横浜市	
金山　神冠	新潟県長岡市	
金内　清	新潟県長岡市	
金子　邦雄	神奈川県相模原市	
金子千恵子	新潟県長岡市	
金子　登美	新潟県長岡市	
金子八重子	新潟県長岡市	
加納　照子	新潟県長岡市	
樺澤　幸子	新潟県長岡市	
加部　知也	神奈川県横浜市	
上村　国喜	新潟県長岡市	
㈲鴨川館	新潟県長岡市	
河井　寛治	千葉県船橋市	
川上　昌子	新潟県長岡市	
河内　崇	新潟県長岡市	
河内　忠明	新潟県長岡市	
河村　正美	新潟県長岡市	
唐沢　信安	東京都世田谷区	
菅家　和人	福島県只見町	
神林　茂	新潟県長岡市	
神林よし子	新潟県長岡市	
木内　清二	新潟県長岡市	
岸　洋助	新潟県長岡市	
北沢　実	新潟県見附市	
北嶋　文男	東京都青梅市	
北原　宏	茨城県土浦市	
木村　信男	新潟県長岡市	
桐生　源一	新潟県長岡市	
桐生　伸一	新潟県長岡市	
久保田哲夫	新潟県小千谷市	
久須美　博	新潟県長岡市	
久保田久二男	新潟県長岡市	
栗山泰一郎	新潟県長岡市	
桑原　誠一	新潟県長岡市	
桑原　夏子	新潟県長岡市	
高速印刷㈱	新潟県長岡市	
小金井弘一	新潟県長岡市	
㈱越のむらさき	新潟県長岡市	
小島　義雄	新潟県長岡市	
小杉　明史	静岡県静岡市	
古田島耕三	新潟県長岡市	
古田島洋子	新潟県長岡市	
古田島吉輝	新潟県長岡市	
児玉　仁衛	新潟県燕市	
小林　熊次	新潟県魚沼市	
小林久美子	新潟県五泉市	
小林　繁雄	新潟県長岡市	
小林　敏秋	新潟県長岡市	
小林　章栄	新潟県長岡市	
小林　昇平	埼玉県春日部市	
小林　伸治	新潟県長岡市	
小林　宏	埼玉県狭山市	
小林　勝	新潟県新潟市	
小林八重子	新潟県長岡市	
小林　芳郎	新潟県長岡市	
駒形　千代	新潟県長岡市	
駒形　豊	新潟県長岡市	
小師　淳雄	新潟県長岡市	
小山　忠	新潟県長岡市	
小山　芳寛	新潟県新潟市	
小山　與	新潟県新潟市	
近藤　栄子	新潟県長岡市	
近藤　倫弥	新潟県長岡市	
近藤　信行	新潟県長岡市	
近藤　龍弘	新潟県長岡市	
近藤　僚三	東京都千代田区	
斎藤健二郎	新潟県長岡市	
斎藤　高司	新潟県長岡市	
斎藤　安枝	新潟県柏崎市	
斎藤ユキミ	新潟県長岡市	
坂井　昭五	新潟県新潟市	
坂井　福作	新潟県燕市	
酒井与喜夫	新潟県長岡市	
櫻井　良子	新潟県長岡市	
佐々木壮寿	新潟県長岡市	
㈲佐藤印刷所	新潟県長岡市	
佐藤　静子	新潟県長岡市	
佐藤　信子	新潟県長岡市	
佐藤　肇	新潟県新潟市	
佐藤　紀子	新潟県長岡市	
佐藤　正樹	新潟県長岡市	
佐藤ミネ子	新潟県長岡市	
佐藤　靖雄	新潟県長岡市	
佐藤　孔一	新潟県長岡市	
佐野　豪	新潟県長岡市	
澤　秀一郎	新潟県長岡市	
澤　竜太郎	新潟県長岡市	
澤野久美子	新潟県長岡市	
三條　和男	東京都武蔵村山市	
志賀　清子	新潟県長岡市	
七里　貞雄	新潟県長岡市	
品田　満	新潟県長岡市	
渋谷　七重	新潟県長岡市	
清水　洋一	新潟県長岡市	
霜田　誠	新潟県長岡市	
下村　恒也	新潟県上越市	
十楽寺直彦	北海道札幌市	
新保　到	新潟県新潟市	
新保　欽司	新潟県長岡市	
神保　孝作	新潟県長岡市	
神保　智子	新潟県長岡市	
菅原　次朗	東京都品川区	
杉岡　悦子	新潟県長岡市	
鈴木　重壱	新潟県長岡市	
鈴木　利子	新潟県長岡市	
鈴木　広和	埼玉県所沢市	
関　和夫	新潟県長岡市	
関　貴志	新潟県長岡市	
関　真	新潟県長岡市	
関口トシ子	新潟県長岡市	
仙田　善雄	新潟県新潟市	
反町　和夫	新潟県長岡市	
高木　春夫	新潟県長岡市	
高田　裕司	新潟県長岡市	
高塚　洋司	大阪府高槻市	
高頭不動産㈱	新潟県長岡市	
高梨　友正	東京都品川区	
高野　秀勝	新潟県長岡市	
高野　正義	新潟県長岡市	
高野　美芳	新潟県長岡市	
高野八重子	新潟県長岡市	
高野　裕	新潟県長岡市	
高橋　時雄	新潟県三条市	
高橋　尚樹	新潟県新潟市	
高橋ヒロ子	新潟県長岡市	
高橋　文男	新潟県長岡市	
高橋　実	新潟県長岡市	
竹中　孝好	新潟県長岡市	
竹村　保	新潟県長岡市	
多田　猛夫	新潟県長岡市	
太刀川喜三	新潟県長岡市	
田所　仁	新潟県長岡市	
田中　玉蘭	新潟県長岡市	
田中　隆	新潟県長岡市	
田中　久雄	新潟県長岡市	
田中　仁	新潟県新潟市	
田中　洋史	新潟県長岡市	
田中　弘美	新潟県長岡市	
田中　康子	新潟県長岡市	
田辺　敦子	新潟県長岡市	
谷　静枝	新潟県長岡市	
谷　朋子	新潟県長岡市	
種岡由美子	新潟県長岡市	
玉沖　沙織	新潟県長岡市	
田村嘉和子	新潟県長岡市	
田村　靖子	新潟県長岡市	
築井　仁	新潟県長岡市	
忠　軍治	新潟県新潟市	
土田　知子	神奈川県平塚市	
土田　久雄	新潟県長岡市	
土田　ムツ	新潟県長岡市	
土屋　蔵三	新潟県長岡市	
綱島　芳郎	新潟県柏崎市	
㈱テレビ新潟放送網長岡支社	長岡市	
東亜燐寸㈱	新潟県長岡市	
東樹　隆一	新潟県長岡市	
遠山　ノリ	新潟県長岡市	
遠山　典子	新潟県長岡市	
遠山冨士雄	新潟県長岡市	
栂野　行生	兵庫県川西市	
徳力紀久夫	新潟県長岡市	
戸松　茂樹	新潟県長岡市	
富澤　一美	群馬県榛東村	
内藤　孝	新潟県長岡市	
内藤　則子	新潟県長岡市	
永井　勲	新潟県長岡市	
永井　紳一	新潟県長岡市	
長尾　英昭	新潟県長岡市	
長岡観光・コンベンション協会	長岡市	
中川　一男	新潟県長岡市	
中川　基人	神奈川県平塚市	
中川　好一	新潟県長岡市	
中島　あき子	新潟県長岡市	
中島　榮一	新潟県長岡市	
長橋　美代	新潟県長岡市	
中村　祥一	新潟県長岡市	
中山　達雄	新潟県新潟市	
㈱ナチュラルマジック	埼玉県さいたま市	
鳴海　忠夫	新潟県長岡市	
難波　進一	新潟県長岡市	
㈳新潟県環境衛生中央研究所	長岡市	
新潟綜合警備保障㈱長岡支社	長岡市	
㈱新潟総合テレビ長岡支社	長岡市	
西澤　信勝	新潟県長岡市	
西村　悦子	新潟県長岡市	
西脇　恵一	新潟県長岡市	
西脇　まき	新潟県長岡市	
新国　勇	福島県只見町	
二宮　良夫	新潟県長岡市	
根岸千代子King	カリフォルニア州	
野口　功	新潟県長岡市	
野口キノエ	新潟県長岡市	
野沢美代子	新潟県長岡市	
野村　昌弘	栃木県佐野市	
羽賀　龍介	新潟県長岡市	
長谷川市郎	東京都調布市	
長谷川潤治	新潟県長岡市	
長谷川　弘	新潟県新潟市	
花田　俊雄	大阪府大阪市	
原　満津子	新潟県長岡市	
㈱原　信	新潟県長岡市	
疋田　昭平	新潟県長岡市	
広川美栄子	新潟県長岡市	
平沢　忠男	新潟県長岡市	
廣井　晃	新潟県長岡市	
平岡　誠	東京都杉並区	
広井　忠男	新潟県小千谷市	
広江　幸	新潟県長岡市	
広川幸一郎	新潟県長岡市	
広島　琴美	埼玉県上尾市	
広瀬　弘之	新潟県長岡市	
広瀬　洋一	新潟県長岡市	
広田　忠俊	新潟県長岡市	
樋山　粂男	新潟県長岡市	
深滝健太郎	新潟県長岡市	
深滝　純一	新潟県長岡市	
深野　隆庸	神奈川県平塚市	
福田　渡	新潟県長岡市	
福山　徹	新潟県長岡市	
藤田　清	新潟県長岡市	
古屋　信司	新潟県長岡市	
辺春由美子	新潟県長岡市	
辺見　輝夫	福島県南会津町	
辺見　実	新潟県見附市	
宝輪　克也	新潟県新潟市	
北越メタル㈱	新潟県長岡市	
星　貴	新潟県長岡市	
星野　一良	新潟県長岡市	
星野　儀平	新潟県長岡市	
細川　家	新潟県長岡市	
堀　桂子	東京都大田区	
堀井　貫	新潟県長岡市	
堀口　晴夫	新潟県長岡市	
本間　満	新潟県長岡市	
前田　綾子	新潟県長岡市	
前田　一廣	三重県四日市市	
牧野　創	東京都小金井市	
牧野　隆	静岡県静岡市	
牧野　正弘	新潟県新潟市	
牧野　道夫	新潟県長岡市	
巻渕　哲郎	新潟県長岡市	
真島　健一	新潟県長岡市	
増井　三信	新潟県長岡市	
増田　恒男	大阪府東大阪市	
町永　竹松	新潟県長岡市	
松永　精子	新潟県見附市	
松原　越男	新潟県長岡市	
松原　清	神奈川県川崎市	
松山　賢二	新潟県長岡市	
丸田　昭夫	新潟県長岡市	
丸山　進	新潟県長岡市	
丸山　豊茂	新潟県長岡市	
丸山巳子二	新潟県長岡市	
丸山　恵	新潟県長岡市	
三浦　則夫	新潟県長岡市	
三上　雅子	新潟県長岡市	
水野　秀雄	新潟県長岡市	
溝口　敏麿	新潟県加茂市	
三越タクシー㈱	新潟県長岡市	
三間　韶子	新潟県長岡市	
峯岸　弘行	東京都日野市	
宮下　勇	新潟県長岡市	
宮本　尊生	和歌山県和歌山市	
村上　徳光	埼玉県川口市	
目黒　良樹	福島県只見町	
本山　幸一	新潟県長岡市	
森　鐵	群馬県高崎市	
森本　秀明	東京都新宿区	
森山　建之	新潟県長岡市	
諸橋　昭	新潟県長岡市	
諸橋　一郎	新潟県長岡市	
矢尾板　勇	新潟県長岡市	
谷井　伶子	新潟県小千谷市	
八木澤千代子	東京都杉並区	
柳町　健一	新潟県長岡市	
簗田　勝二	新潟県小千谷市	
山岸　孝広	新潟県長岡市	
山口　知子	東京都港区	
山﨑　健次	新潟県長岡市	
山田　一男	新潟県長岡市	
山田　省吾	新潟県長岡市	
山本　博子	大阪府大阪市	
山本　正男	新潟県長岡市	
吉越　久子	長野県長野市	
吉崎こずえ	東京都大田区	
吉田　博	新潟県新潟市	
吉乃川㈱	新潟県長岡市	
吉原　玲子	新潟県小千谷市	
若狭　太一	新潟県長岡市	
我妻　信	長野県飯山市	
脇屋　雄介	新潟県長岡市	
涌井　カツ	新潟県長岡市	
和田　曜享	大阪府大阪市	
和田　等	新潟県長岡市	
和田　行夫	新潟県小千谷市	
渡邊　渓山	新潟県長岡市	
渡邊　静江	新潟県長岡市	
渡辺　信一	新潟県新潟市	
渡辺　進	新潟県長岡市	
渡辺精一郎	新潟県長岡市	
渡辺　誠介	新潟県長岡市	
渡辺　タミ	新潟県長岡市	
渡辺　千雅	新潟県長岡市	
渡辺　俊雄	新潟県長岡市	
渡辺　秀央	新潟県三条市	
渡辺　博	新潟県長岡市	
渡辺廉太郎	神奈川県平塚市	

（アイウエオ順・敬称略）

記念館日誌 某月某日

五十代位のご夫婦が入館されガトリング砲を見つけ、すぐに近づいて行かれました。

「どうぞ、ハンドルを回されて結構ですよ。」と言うと、ご主人が嬉しそうに回され、それに合わせて奥さんが絶妙のタイミングで「ダーン」と言って撃たれた格好をされました。そばで見ていた私も思わず微笑んでしまいました。

とても明るいご夫婦で、ほのぼのと暖かい気持ちになりました。

（広川）

編集後記

●春の訪れとともに、創刊号発刊のはこびとなりました。会員のみなさまに、記念館を、そして河井継之助を身近に感じていただけるような会報づくりをしていきたいと思います。（嘉瀬）

●自分の書いた原稿が活字になって感激です。学生時代に戻ったような雰囲気の中での作業は、良い経験でした。（櫻井）

●声をかけ合いながら作った創刊号！完成して、みんなで飲んだお茶の味は格別でした。（神保）

●初めての編集作業、皆で力を合わせ創刊号ができました。次号からも頑張ります。（樺澤）

●知恵を出し合い完成した創刊号を御覧頂けると嬉しいです。

（広川）

構成・石原洋二郎デザイン室
印刷・高速印刷株式会社